



執行役員 建設・更新事業本部長
今木 博久

「技術」とは

「技術」という言葉の意味を改めて調べてみますと、「①物事を巧みにしとげるわざ、②自然に人為を加えて人間の生活に役立てるようにする手段」とあります。少し飛躍するかもしれませんが、私の解釈としては「できないことを何とかしてできるようにすること」、更には「夢を現実にする」ことが「技術」ではないかと思えます。

幼い頃には鉄腕アトムを見て、未来にはこんなことが可能になるのだと目を輝かせ、また大人になってからもドラえもんを見て、こんな道具が実際にあったら良いなと子供と一緒に楽しんだものでした。

こういった夢を現実のものにする。そのためには今までは想像も出来なかった新しい「技術」を開発し、その実現に向けて人一倍一生懸命努力する。例えば今まで経験してきた業務の中でああいうことが可能だったらもっと素晴らしいものになったのではないかというようなことや現在取り組んでいる業務の中で悩んでいるようなことなど、直面している課題を何とかしようということから「技術」は形成されるのだと思います。対象が大きなものでも小さなものでも「技術」を構築し磨いていき、そして引継いでいくということは我々の業務に必要不可欠なものです。ただどんなことでも夢を実現させることはそう容易なことではありません。失敗は当然です。失敗したらそれはそれで何故失敗したのかを分析し次のチャレンジに生かしていけば良い。そういう夢に向かっていく気概が一番大事だと思います。

今大きな風として、弊社が携わる事業が目白押しとなってきています。まず建設事業では、来年に供用を迎える大和川線及び西船場JCTがあり、ラストスパートの段階となっています。また18年ぶりの新規路線となった左岸線延伸部及び湾岸道路西伸部は、いよいよ本格的に事業を進めていく段階となっています。更に2025年の万博開催に向けてその重要なアクセス道路となる淀川左岸線2期は、大阪市よりの受託工事が急務となっています。

一方、2015年から取り組みだした大規模更新・修繕事業においても、湊町及び湊川がようやく現場着手の段階へと進み始めましたし、修繕事業も各箇所ですべて全面的に進められているところです。更に今年の春には神戸線、秋には湾岸線のリニューアルプロジェクトも予定されています。

これだけのフィールドが目の前に広がっているのです。新しい「技術」を開発するもよし、いわゆる職人技的「技術」をより精緻にするもよし、これらの「技術」を引き継ぐもよしです。社員の一人一人があらゆる場面で「技術」の研鑽に精進し、是非ともご自身の「夢」を「現実」のものにしていただくようお願いいたします。